

## 福岡県における自治体肝炎ウイルス検査の実態と陽性者 follow up

研究分担者：井出 達也 久留米大学医学部内科学講座消化器内科部門 准教授

**研究要旨：**福岡県において、県、および市で行っている肝炎ウイルス無料検診について、陽性率や陽性者のフォローアップ状況を調査した。この事業は福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市の 4 つの市と、上記の市以外の計 5 つの地区に分かれて事業が行われている。調査の結果、H24 年度から H29 年度は毎年 2.5～3.0 万人程度検診を受けており、とくに減少傾向などはなく安定した検診数であった。B 型肝炎陽性率は 0.7～1.0%で年度により変化ないが、C 型肝炎は H24～H26 年度 0.78～0.99%であったのに対し、H27～H29 年度 0.65～0.79%と若干減少していた。H29 年度を地区別に見ると、福岡県南部(久留米市、大牟田市)が北部(福岡市、北九州市)にくらべ、C 型肝炎の陽性率が高かった。ウイルス肝炎陽性者のフォローアップ率は、福岡市、北九州市が低い傾向にあったが、人数も多く、今後その原因の詳細を調査する予定である。まとめ：福岡県無料検診における肝炎ウイルス陽性率、フォローアップ率が明らかになったが、いまだ一定数の陽性者がおり、検診を促進するとともに、フォローアップも充実させる必要があると考えられた。

### A. 研究目的

自治体主導の(基本/特定/がん)健診時(特定感染症検査等事業)に行われる肝炎ウイルス検診等により、福岡県でも毎年多くの県民がウイルス性肝炎の検査を受けている。今回 H24 年度から H29 年度までの検診受検者数と陽性率、フォローアップ率などを解析し、また地区別にも検討し、問題点などを抽出した。

### B. 研究方法

福岡県では、この事業は福岡市、北九州市、久留米市、大牟田市の 4 つの市と、上記の市以外の計 5 つ地区に分かれて事業が行われ、結果が集積されている。また B 型(HBs 抗原)、C 型肝炎ウイルス(HCV 抗体)別にも統計が取られている。

検討 1) H24 年度から H29 年度の福岡県全体における B 型および C 型の受検件数と陽性率を算出した。

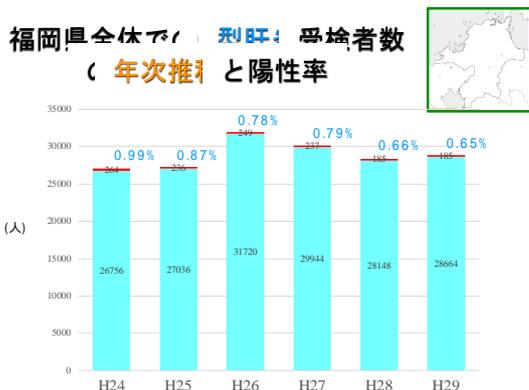
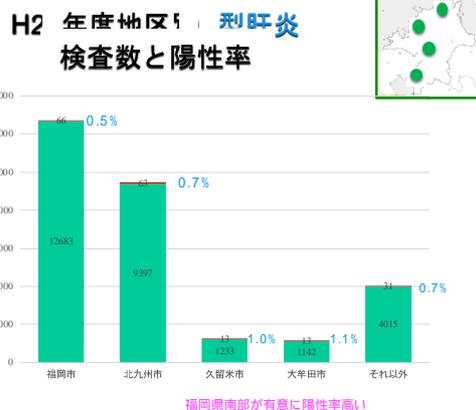
検討 2) H29 年度の 5 つの地区別の受検件数、陽性率を算出した。

検討 3) 4 つの市の人口あたりの受診率を算出した。厳密な受診率は困難であるので、市の人口に対する受診者数で表示した。

検討 4) 地区別の陽性者数とフォローアップ率について算出した。フォローアップとは、陽性者に保健師などが電話や訪問することにより、患者が医療機関を受診しているかを確認し、受診していない患者は受診勧奨し、受診まで至ったことを確認できた患者をフォローアップありとした。

### C. 研究結果

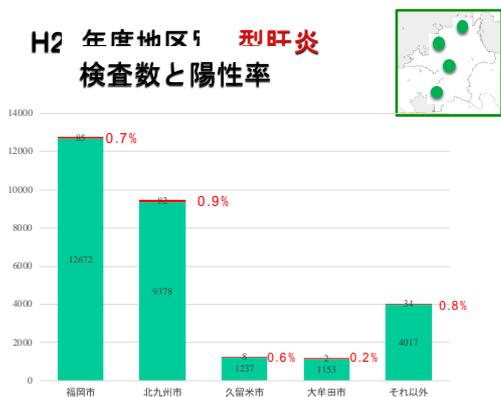
**検討 1：**福岡県全体における B 型および C 型の受検件数と陽性率を示す。B 型肝炎は H24 年から H29 年まで受検人数は 25,000 人から 30,000 人程度であり、陽性率は 0.7～1.0%であり変化なかった。一方、C 型肝炎の受検人数は B 型肝炎と同じであるが、陽性率は H24～H26 年度 0.78～0.99%であったのに対し、H27～H29 年度 0.65～0.79%と、次第に陽性率が低下していることが判明した。



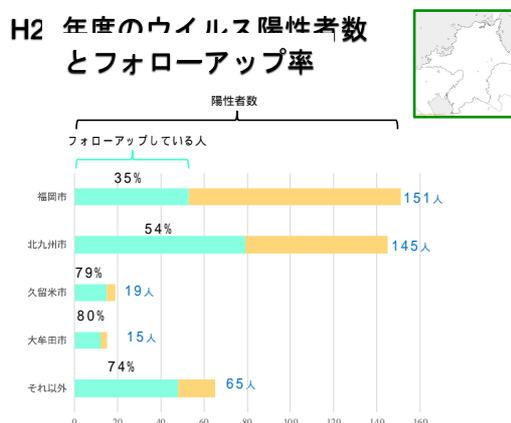
検討 3: 4 つの市の人口あたりの受診率を算出したが、久留米市は 0.4% と低かったが、残りの 3 市は 1.0% 前後であった。



検討 2: H29 年度の 5 つの地区別の受検件数、陽性率を示す。大都市である福岡市、北九州市の検査数が多いが、B 型肝炎陽性率は、各地区に差はなかった。一方、C 型は久留米市、大牟田市の県南部が、北部に比べて有意に陽性率が高かった ( $p=0.0063$ )。



検討 4: 地区別の陽性者数とフォローアップ率を示す。ウイルス陽性者数は検査数の多い、福岡市や北九州市で多かったが、フォローアップ率は人数の少ない久留米市、大牟田市が高かった。



## D. 考察

福岡県における肝炎ウイルス検査は、横ばいながら検査数は減っていないことが判明した。B型肝炎の陽性率の推移は変わりないが、C型肝炎の陽性率は次第に陽性率が減少していることが観察され、C型肝炎患者は減っているものと考えられた。

地区別にみると、B型肝炎は地区によってその陽性率に変化はないが、C型肝炎は、福岡県南部で有意に多いことが判明した。以前より福岡県南部は北部に比し肝炎患者が多いと考えられていたが、現在もそれは持続していることが明らかとなったが、福岡市、北九州市は、人口年齢も若いことが一因とも考えられる。

受診率については、久留米市が若干低かったが、人口から計算した概算であり、確定することはできず、参考値としておく方がよいと思われる。

地区別のフォローアップ率は、福岡市、北九州市で低かったが、陽性者の人数も多く、フォローアップを行うことは容易ではないとも考えられる。また都市部は住民の移動なども多いと聞く。今後は都市部でのフォローアップ率が低いことを詳細に調査していく予定である。

## E. 結論

福岡県ではウイルス肝炎の無料検診は、毎年2.5～3.0万人程度安定して受けている。B型肝炎の陽性率は変化ないが、C型肝炎は若干減少している。C型肝炎は福岡県南部で陽性率が高かった。フォローアップ率は大都市が低い傾向にあり、人数も多いためもあると考えられるが、今後その詳細を調査する予定である。

最後に、福岡県無料検診における肝炎ウイルス陽性率、フォローアップ率が明らかになったが、いまだ一定数の陽性者がおり、検診を促進するとともに、フォローアップも充実させる必要があると考えられた。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

なし

### 2. 学会発表

なし

### 3. その他

#### 啓発活動

\*井出達也：講演「C型肝炎 飲み薬でみんな治ってしまいます」市民公開講座、平成30年10月13日 主催：福岡県肝疾患相談支援センター

## H. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし